

三小だより

6月号

平和の心を育てたい

校長 藤本 賀津雄

子どもたちは今、運動会の練習に頑張っています。ダンスや踊り、組み体操などの団体演技は、みんなで力を合わせて一つのものを完成させる学習です。どの子どもみんなのために頑張ることの大切さを学んでほしいと思っています。運動会当日は、是非子どもたちの演技や競技にご声援ください。

さて、今年は原爆投下から70年です。8月15日が来ると、戦争が終わってからちょうど70年の歳月が流れることになります。今では戦争を体験された方々の高齢化が進んでおり、広島平和公園などでは、被爆体験の語り部さんも少なくなってきました。過去の戦争を風化させないように、テレビや映画の企画準備も進められているようです。いつまでも平和が続くことを願わずにおられません。しかし、海外に目を向けると、今も戦争や紛争が起きている地域があります。

ユネスコ憲章には「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と記されています。言い換えれば、平和の心を育てていくことが、確実に平和な社会を築くことにつながるということでしょう。つまり、一人ひとりの心の中に、他人を思いやる気持ちや他人に感謝する気持ちを育てていくことが大切だということだと思います。

近ごろは大人も子どもも、うまくいかないことを他人のせいにしたり、失敗の原因を他人に求めたりする風潮があるような気がします。逆に、順調にしている時は当たり前と思い、人に感謝する心を忘れてしまいがちです。うまくいかないときには人の失敗や欠点を責めるのではなく、その人を励ましていこうとする心が大切です。また、うまくいっているときは、あの人のお陰だ、ありがたいことだと感謝する心が大事だと思います。このような平和の心は自然に育つものではありません。教育を通して意図的に育てていかななくてはなりません。

世界の平和といっても遠いところにあるのではなく、実は身近なところにあるのです。家庭や学校、地域といった自分の身近なところから平和が広がっていくのです。子どもたちは運動会の練習を通して、平和の心を学んでいます。人の失敗を笑ったり責めたりするのではなく、友達のことを思いやり助け合う心を育てようとしています。ご家庭でも温かく応援してやってください。

